

外来患者の服薬状況の把握に関するアンケート調査について

○青井 直樹 本間 久美子 塩田 恵 辻本 勉

(淡路医療センター薬剤部)

#### 【目的】

当院入院患者の持参薬鑑別を行っているため残薬の多い患者が散見され、調剤薬局でも同様な患者が多いと考えられる。特に、調剤薬局では、薬剤服用歴管理指導料の算定要件の一つに残薬確認が含まれるため、綿密な残薬確認を行っている。そのため、当院と調剤薬局が患者情報を共有することで患者の残薬把握・アドヒアランス向上につながると考える。そこで、外来患者の服薬状況を把握するため調剤薬局にアンケートを行った。

#### 【方法】

対象：兵庫県薬剤師会淡路支部に在籍する保険調剤薬局

期間：平成27年3月4日～3月14日

配布および回収方法：FAX

回収率：89% (49/55)

質問事項：以下6項目

- ①残薬確認を行っている患者割合
- ②全患者のうち残薬のある患者割合
- ③患者の残薬日数
- ④残薬のある場合、医師へ投与日数調節照会の有無
- ⑤残薬はあるが投与日数調節を希望しない理由
- ⑥残薬のある患者を当院薬剤部へ照会することの是非

#### 【考察】

49施設中92%の施設で半数以上の患者の残薬確認を行っているが、3日以上残薬のある患者が全体の3割以上占める施設は55%であった。また、76%の施設では残薬調節を患者希望時のみに行っていた。投与日数調節を希望しない理由に自己調節・医師に知られたくないためとの回答が7割の施設を占め、医師はすべての患者の服薬状況を把握できていない可能性がある。また、76%の施設が当院薬剤部と積極的な連携を求めており、医師へ服薬状況を伝えるシステムを構築することで残薬調節がより推進されると考える。

#### 【結論】

医師がすべての外来患者の服薬状況を把握するのは困難であり、当院と調剤薬局が患者情報を共有することが求められる。今回、調剤薬局からの積極的な連携を求める声が多かったことから、当院薬剤部では調剤薬局から得た患者の服薬状況をスムーズに医師にフィードバックできるシステムを構築する必要がある。